

まちづくりの具体像 (案)

まちづくり基本方針で述べられている上・中・下流別、またゾーン別の基本方針をまちづくりに反映させ実現していくために、大橋川周辺のまちづくりを中心に、水都松江のまちづくりプロジェクトについて検討した。

ここでは、水辺の利活用、観光振興・商業振興とも関連させながら、コンセプトを整理し、「まちづくりの具体像」としてとりまとめた。

水都松江の水辺を活かしたまちづくりは、季節の景・一日の景を楽しみながら散策できる回遊性を重視した「水辺回遊公園都市」をコンセプトに行う。ここでいう「水辺回遊公園」とは、宍道湖・大橋川の既存の親水空間、新たに創出・再生する水辺空間、良好な視点場、環境学習の場等を回遊する巨大遊水空間のことである。

宍道湖・大橋川・中海を繋ぐ水辺の回遊公園都市は、出雲国風土記のスケール感でとらえ、松江城・堀川遊覧、歴史や文化を活かしたものとする。

回遊公園構想は、治水・景観・まちづくりを統合する思想で進めるものとし、工事中も生きるよう配慮する。

「水都松江の水辺回遊空間」まちづくりプロジェクト

いずものくに ふ ど き

出雲国風土記のスケール感で繋ぐ、宍道湖・大橋川・中海



出雲国風土記:
やつかみづおみづぬのみこと
 奈良時代の733年に完成した出雲国風土記は、八束水臣津野命(洪水神)が大社湾の「園の長浜」と美保湾の「夜見が浜」を網として、それぞれを三瓶山と大山を杭として結び、遠くの朝鮮半島や能登半島から余った土地を引き寄せ島根半島としたと、壮大なスケールの国引き神話で始まっています。大橋川はこの国引きによる縫い目に当たる部分で、壮大なスケールの中にあります。

大橋

- ◆大橋のデザインは、歴史・文化を感じさせる風情を大切にしたものとする。
- ◆現在の風情を引き継いだ橋となるよう配慮する。
- ◆岸辺の回遊コース・まち歩きコース共に、歩行者動線の中心的な南北軸と位置づけ、南北に休憩できる橋詰め公園を検討する。



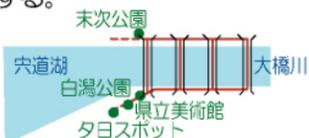
北岸: 歴史・文化

- ◆水辺に現存する季節や一日の中、歴史・文化のかお(優れた景観形成)
- ◆河岸形状や人の堤防・道路・沿道
- ◆老舗旅館や飲
- ◆伝統的まちな



岸辺の回遊コース

◆南北を繋ぐ上流の4つの橋を歩いて巡り、季節や一日の中で見せる多様な水辺の表情を見ながら回遊できる空間を創出する。また、夕日スポットや県立美術館、白湯公園等を繋ぐ連続した空間となるよう配慮する。



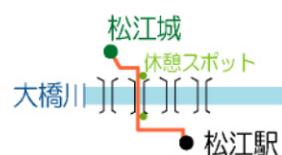
◆回遊コースの随所に休憩スポットとなる場を創出し、水辺の近さを感じることが出来るよう配慮する。(橋詰め広場等)

◆伝統的まちなみや、良好な視点場に配慮した空間とする。



まち歩き回遊コース

◆松江駅前から水辺へ誘導する歩行者動線に配慮する。また、商店街を歩きながら、松江城まで回遊できる歩行者動線を意識したまちづくりとする。

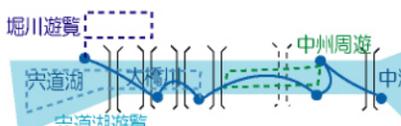


◆松江城、カラコロ広場、堀川遊覧、宍道湖遊覧船等の観光資源と市街地内の公園等を活かし、商業・観光振興と連動した歩行者動線に配慮する。

◆伝統的まちなみを楽しみながら散策し、水辺の公園や親水空間で休憩できるスポットを創出する。

水上回遊コース

◆宍道湖・大橋川・中海をつなぎ、風土記のスケール感を感じながら回遊するコースを、商業振興・観光振興と併せて検討する。



◆乗船場等の水上交通の拠点となる場所を創出する。(配置についても検討)

◆水都松江の風情と水郷風景を最大限に活かし、堀川遊覧、宍道湖遊覧、中州周遊等との連携に配慮する。



岸辺の回遊コース

まち歩き回遊コース

南岸: 回遊公園都市の拠点となる水辺の

- ◆水辺に現存する夕日スポットや県立美術館前、日季節や一日の中で見せる多様な景観を楽しみながら「まちの骨格」を検討する。また、水辺は人の動線めいた検討を行う。
- ◆骨格を決めた後、どのような公園にするかとい

中海の水辺回遊公園都市

岸：歴史・文化のかおりを残す「和の趣」のまちづくり

水辺に現存する夕日スポットや県立美術館前、白濁公園、源助公園を繋ぎ、穴道湖や大橋川の水の流れ、節や一日の中で見せる多様な景観を楽しみながら回遊できる「岸辺回遊コース」の一部として楽しめる、史・文化のかおりを残した「和の趣」を活かしたまちづくりを行う。
(優れた景観形成の誘導措置を併せて検討)

河岸形状や人の動線、車の動線、商業振興などを考慮し、防・道路・沿道建築物との調和を図りながら「まちの骨格」を検討する。

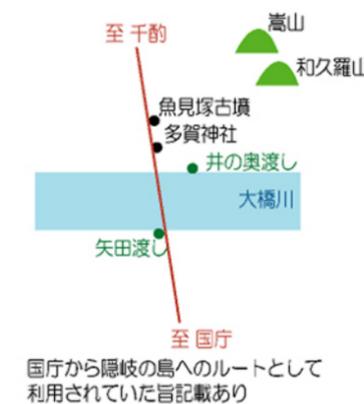
老舗旅館や飲食店等、伝統的な施設も構想の重要なポイントとして位置づける。

伝統的まちなみを通る生活道路は、通行規制も含めた検討を行う。



いにしへの流れを活かした水辺づくり

◆「水上回遊コース」「水郷回遊コース」の休息スポットや水上交通拠点候補として検討する際には、多賀神社、魚見塚古墳、塩盾島等の歴史的・文化的財産を活かした空間となるよう配慮する。



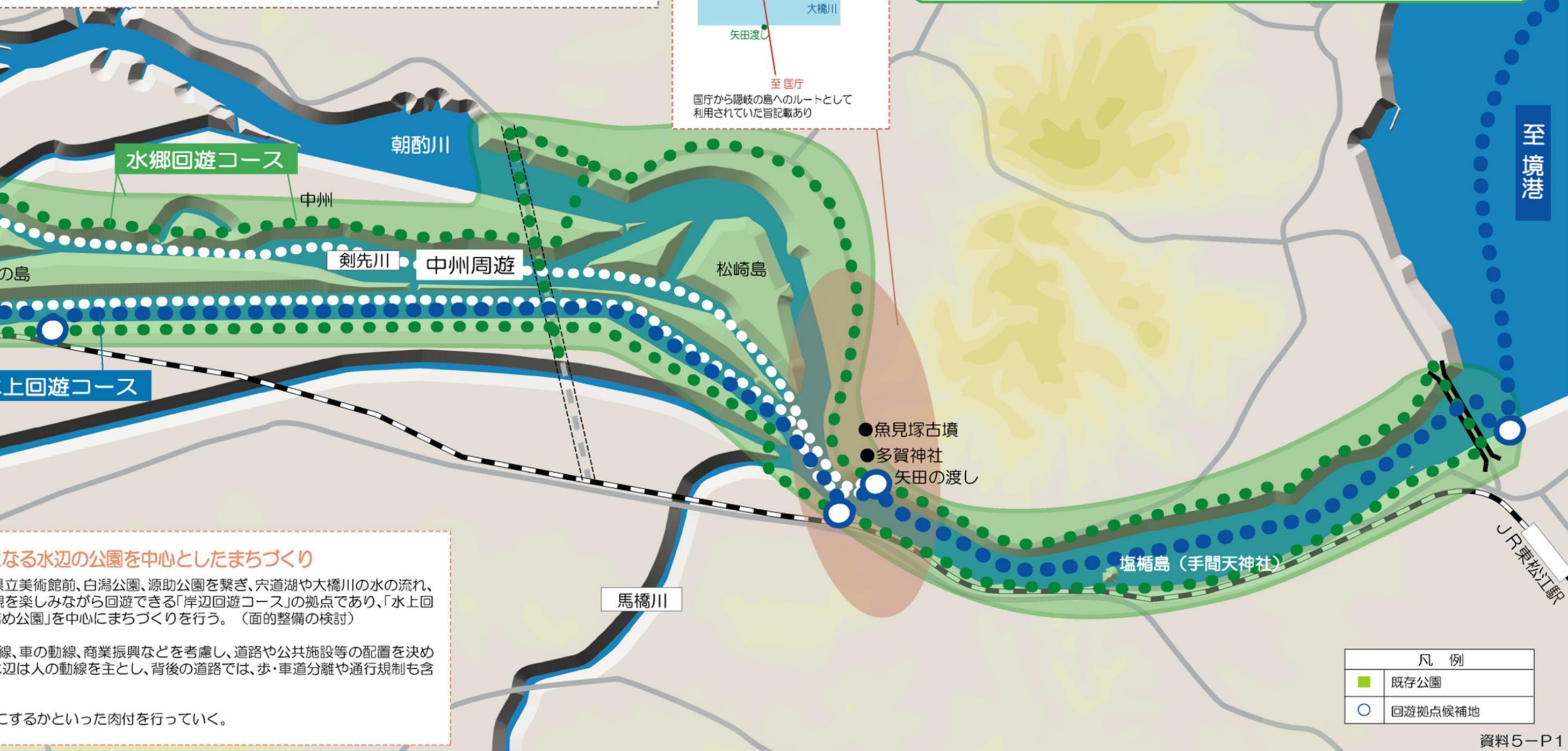
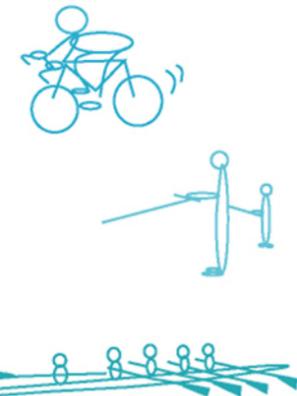
水郷回遊コース

◆自然豊かな水郷風景を見ながら回遊できる散策道・自転車道として活用する。

◆目的に適した場所では、釣りや、カヌー等のレジャースポットや環境学習の場として活用する等、治水上有効な遊水機能の保全にも配慮しながら、景観と自然環境を損なうことのない整備を検討する。

◆現在の生活道路としての機能や水辺の近さ、水郷風景等、地域の特性に配慮した河岸を検討し、歩行者や自転車が河岸を回遊できるよう連続性に配慮する。

◆白鳥が飛来する豊かな自然が現存する大橋川河口では、環境学習の場としての可能性を、河岸にはヨシ帯の再生等を検討する等自然景観に配慮する。



既存公園を中心としたまちづくり

県立美術館前、白濁公園、源助公園を繋ぎ、穴道湖や大橋川の水の流れ、景観を楽しみながら回遊できる「岸辺回遊コース」の拠点であり、「水上回遊コース」を中心としたまちづくりを行う。(面的整備の検討)

人の動線、車の動線、商業振興などを考慮し、道路や公共施設等の配置を決め、水辺は人の動線を主とし、背後の道路では、歩・車道分離や通行規制も含

を検討するといった肉付を行っていく。

凡例	
■	既存公園
○	回遊拠点候補地

大橋川周辺まちづくり基本計画策定のための基本思想の補足説明
作業部会長 桑子敏雄

基本方針に示された大橋川周辺のまちづくりは、洪水対策、景観、環境、まちづくりという4つの要素が不可分に関係した前例のないプロジェクトである。この歴史的プロジェクトは、21世紀の日本の河川整備、まちづくりのモデルとなるものであり、その精神をどう計画を具体化し、また、事業の全体（進捗管理も含めて）をどうマネジメントするかということが課題となる。

以下は、基本方針を基本計画に具体化するための思想である。

1. 松江が不昧公に代表される大名の城下町であることを踏まえ、松江城が宍道湖を望む地に建設されたことを考慮して、巨大な池を展望する大名庭園としてこの空間を見立ててみる。大名庭園は、しばしば大きな池をめぐる回遊式庭園となっている（岡山後楽園や金沢兼六園）ことから、宍道湖、大橋川、中海を巨大な池と見立てる。すると、大橋川改修は、この巨大庭園を回遊する拠点づくりという意味をもつことになる。
2. このように、宍道湖、大橋川、中海を見ると、その全体的展望は、出雲風土記に記された島根半島の国引き神話のスケールであることが分かる。この地域は、出雲国庁、神魂神社、八重垣神社や、多賀神社など、「神々の庭園」の相貌をもっている。
3. そこで、松江のまちづくりを「水都松江の水辺回遊空間」まちづくりプロジェクトと名づけ、そのコンセプトを「出雲国風土記のスケール感で繋ぐ、宍道湖・大橋川・中海の水辺回遊公園都市」とし、その多様な回遊コースの拠点として、大橋川とくに松江大橋周辺を位置づける。

より具体的な整備の要点は以下のようになる。

- (1) 地域全体を回遊式大名庭園の「回遊性」の場として見立てて、多様な回遊コースを整備する。
- (2) 「出雲国風土記のスケール感」で、この地域の大景観を楽しむための拠点(たとえば、大橋川松江大橋付近のふなだまり、宍道湖の夕日スポットなど)を多様に展開する。
- (3) 堀川遊覧のにぎわいを宍道湖から中海に至る巨大水辺空間に展開し、また、松江城から松江駅に至るまちのにぎわい動線を創出する。
- (4) 大橋、新大橋、北岸、南岸に囲まれた大橋川を大きな池と見立て、その周囲を岸辺の回遊公園として整備し、松江駅から松江城に至るまちのにぎわい空間と交差させる。
- (5) 各回遊コースの結節点として松江大橋を捉える。たとえば、堀川遊覧と宍道湖遊覧とをセットとし、割引券で結び、現在の京橋川の乗り場と大橋川の乗り場をつなぐまち歩きコースとして位置づけることも可能である。

また、工事期間中は、こうした巨大公園都市の造成プロセスとして、まちづくりそのものを観光資源として位置づけ、仮橋をたとえば大橋掛け替えの見学コースに置き、子どもたちがまちづくりを学習できるようにする。また、小さなスケールであっても、多くの人びとがまちづくりに参加できるような仕掛けを工夫する。観光客もまちづくりへの参加ができるような仕掛けをつくる。